

特別研究会

「教員チームによる問題行動、いじめ、不登校児童生徒への対応」

水野 治久先生(大阪教育大学教育学部 教授)

12月2日(土)、水野治久教授を迎え特別研究会を開催しました。

水野先生は、小学校から中学校までの学級で起こる問題行動、いじめ、不登校児童生徒への対応について、教員がチームで取り組むことで解決を目指す支援を続けておられます。

チームでの生徒指導とは、教員が学校外の諸機関(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど)と連携して、子どもの多様な背景を視野に入れながら援助することを意味します。教員のチームは、定期的で恒常的な学校経営チームと、問題状況に応じて作られた複数の個別援助を目的としたチーム群に分けられます。水野先生が取り組んでおられるのは、両者の橋渡しを担うコーディネーション・チーム(生徒指導委員会や教育相談部会など)です。

発表では、14年にわたって続けておられる不登校支援のチーム援助事例について報告がありました。多忙な教員を対象としたワークグループでは、40分程度の時間で援助案を具体的なアクションプランの形で示すところまで行うそうです。ここに、コーディネーターの専門性が求められるとのことでした。

先生は、教育現場では、個人への指導だけではなく学級全体への関わりが欠かせないことを指摘されました。そのバランスをチームという第三者がいる場所で確認しあうことが、問題解決と教員の指導力向上につながると強調されました。

原因を追わず、解決策を探る姿勢にモラロジーとの共通点を見出すことができました。詳しくは先生の著書『子どもと教師のための「チーム援助」の進め方』(金子書房)をお勧めいたします。

(道徳科学センター／木下城康)